

気づきにくい学習者／母語話者間のミスコミュニケーション

ーV-テミルと韓国語 *V-boda*, タイ語 *lɔ ɔ ŋ -V- duu*, クメール語 *saː k -V- məː l* との対照を通じてー

金谷由美子 (大阪大学) POONVONGPRASERT Thanit (大阪大学大学院生)
BANGSAEN Pichamon (大阪大学大学院生) KUY Siemkiang (大阪大学大学院生)

1. はじめに

本発表は試行を表す形式 V-テミルの使用場面における学習者／母語話者間のミスコミュニケーションの存在を指摘し、それが V-テミル形式の持つ含意が学習者に共有されていないことによって引き起こされていることを主張するものである。V-テミルは単に試行を表すだけでなく、指示・依頼・提案における緩衝表現としての役割、控えめな意志表示、空想的な願望表示、婉曲的な断り、会話の展開ストラテジーとしての前置き等の様々な談話機能を持つ。このような V-テミルの運用面での談話機能が母語の試行形式のそれと異なる場合に母語の負の転移が原因と見られる誤用や非用が起きるという実態があるが、これまでわずかな対照研究(生越, 1991; 山崎, 2017)を除き、あまり問題にされてこなかった。本発表では、V-テミル同様、視覚動詞を含む試行形式である韓国語 *V-boda*, タイ語 *lɔɔ-V-duu*, クメール語 *sa:k-V-mə:l* と V-テミルを対照させることによって、これらの形式の持つ相違点を明らかにし、問題の背景を浮き彫りにする。

2. V-テミルによる試行形式の概観

V-テミルによる試行形式は、(1) 靴屋で「(合うかどうか) 履いてみてください」のような場合には必須とされ、基本的には初めて行うことに対する未知の「結果への意識」が使用の前提とされる(金水, 2004; 須永, 2007; 嶋田, 2007)。山崎(2017)が指摘しているように、視覚動詞が試行形式になる例はアジアの言語にいくつか例が見られるが、ではなぜ「見る」が「試行」の意味を持つに至ったのだろうか。嶋田(2007)によれば、「V て、見る」では、前項動詞と「見る」が継起的に連続していたのに対し、前項と後項がひとまとまりになるにつれて前項Vと「見る」との間に時間差がなくなり、そこで焦点シフトが生じ、前項のVに焦点が当たるようになった。それと同時に V-テミルに「意図的に何かを行い結果を見る」という「試行」の意味が生まれ、それが語用論的強化を経て構文となったと考えられる。さらに、嶋田(2007)は、前項動詞に意志性の低い行為が来ると結果は経験となるが、経験への意味拡張は「試行」と「経験」の隣接性によるものであると主張している¹。日本語においては「経験」用法は、「Vてみると／みれば／みたら／みたところ」等の従属節でしか認められないが、韓国語においては主節での「経験」用法がある。また、日本語でも、過去の意図的な「試行」に限り、続きに言及すべき「結果」の前置きとして主節での使用が可能だが、今回対照させたタイ語やクメール語では、過去の「試行」についての使用が全般的に制限的で、通常は使用されない等の相違点があることがあきらかになった。

3. 「結果への意識」の違い

これら言語間での使用範囲の違いは、それぞれの形式の持つ「結果への意識」の強弱の違いと平行している。「試行」において意識される「結果」とは、期待通りの場合とそうでない場合(1)の例であれば、靴が足に合う／合わない)を含む。「結果への意識」は「試行」形式に通言語的に見られる一方、どの言語でも同様の「結果への意識」があるわけで

¹主節でも非意志的Vに接続する「経験」用法が認められる韓国語 *V-boda* では、より多様な用法が見られ、文法化が進んでいると思われることから、この嶋田(2007)の説明が説得力を持つ。

はない。本研究では、クメール語、タイ語、日本語、韓国語の順に「結果への意識」が薄れる用法が見られ、それに伴い用法が多様化していることに着目し、この「結果への意識」の違いが、使用範囲や用法の異なりとそれぞれの形式の持つ含意の違いをもたらしていることを主張する。

本研究では、各言語の母語話者のV-テミルの使用場面ごとの含意に対する理解に焦点を当て、上級以上の日本語学習者に聞き取り調査を行った。その結果、どの言語の母語話者もV-テミルの含意の理解に関して母語の類似形式の影響を受けていること、そしてそれがV-テミルの誤用だけでなく非用にも影響を及ぼしていることがわかった。また、上級学習者でも母語と日本語の差異に來日するまで気が付いていなかった、或いは、今回の調査で初めて差異があることを知ったというケースが見られた。タイ語やクメール語のように「結果への意識」が強い言語では、試行形式が期待通りではない「負の結果」を含みとして強く持つ。例えば、V-テミルを用いた提案・依頼では「期待感」が伝わるため必ずしも失礼にはならない(2)カラオケで友人に「歌ってみて」と言う場面で、クメール語母語話者やタイ語母語話者ではV-テミル形式を使うことに抵抗があると言う。[2.1]クメール語 *sa:k -V- mà:l* やタイ語 *lɔŋ -V- duu* は否定的な結果に対する予測が聞き手に伝わるため、相手の能力にかかわる話題では試行形式が避けられる傾向にあり、大人から子供に対してはよく使うが大人に対しては使いにくい用法となる。母語の形式の持つ含意の影響からV-テミルの使用を避ける傾向にあり、日本語母語話者から言われた場合も、負の結果に対する含みを読み取ってしまうため、「歌が下手だと思っているのか」と解釈して気分を害すると言う。一方、[2.2]韓国語母語話者は、母語 *V-boda* の命令形の持つヘッジ機能をそのまま日本語に転移させ、

(2)「歌ってみて」を単に「歌って」よりもやわらかい依頼であると考える傾向があるため多用する。さらに、韓国語では *V-boda* の命令形に「結果への意識」が非常に薄いヘッジ用法があることから、(3)上司が部下に仕事終わりに「(家に)帰ってみて」(4)ちょっとトイレに行くときに友人に「カバン、持ってみて」のようなV-テミルの不適切な過剰使用も見られる。日本語では、許可の文脈であれば、「～ていいよ」、依頼の場合は「～てくれる?」等の授受表現を用いる方が適切かつ自然であるため、V-テミルの過剰使用が聞き手である日本語母語話者の気分を害する事態を招くこともある。(3)は、例えば、家族の急病等の帰宅後に確認すべき事柄がある場合、(4)は選んだカバンが似合うかどうか確認するためにカバンを持たせる場合であれば使用が可能であろう。(5)ドライブ中に「車を停めてみて」と言った場合は、直ちに誤用だとは認識されないまでも、日本語母語話者は、エンジン音が少し変だからチェックしてみよう等、なにがしかの確認すべき「結果」があると解釈する可能性が高い。日本語母語話者が(3)(4)(5)のような韓国語母語話者のV-テミルの過剰使用に対して抱く違和感は、一見不可解に思えるクメール語母語話者やタイ語母語話者のV-テミルに対する違和感を理解する助けとなる。「負の結果」への意識が薄い(2)におけるV-テミルの使用について、歌を歌ってみればどのような結果が現れるか、即ち、うまく歌えないかもしれないという「負の結果」について必ずしも強く予測していない日本語母語話者の使用態度に、クメール語・タイ語母語話者は違和感を覚えるのである。それは、ちょうど、確認すべき結果がない韓国語母語話者のV-テミルの過剰使用(3)(4)(5)に日本語母語話者が違和感を覚えることと平行していると考えられる²。

意向形においても同様のことが言える。(6)指導教授から論文を渡されて「読んでみます」と言った場合、クメール語母語話者は、読む気があまりないことを婉曲に伝えたつもりであるが、日本語母語話者は必ずしもそうとは受け取ってくれない。[6.1]*sa:k -V- mà:l*の意向形での使用が通常、「読んでどうせ私には難しすぎてわからないだろう」「その論文は役に立たないかもしれない」等の「負の結果」を含意し、その論文を読むことに対する「やる気の無さ」を伝えるのに対して、[6.2]V-テミルは(7)「考えてみます」等の慣用的な表現以外では提案に対する婉曲な拒絶とは解釈されないからである。また、(6)のように、目上からの申し出に対してやる気がないということを伝えると失礼になる場合は、クメール語では*sa:k -V- mà:l*の使用自体が避けられるため、V-テミルの非用の原因にもなり得る。また、逆の立場で、クメール語母語話者が日本語母語話者に「読んでみます」と言われた場合に、婉曲な拒絶と誤解してしまい気分を害することもあり得る。さらに深刻なのは、日本語母語話者に頼まれごとをされ、意向形のV-テミルを用いて婉曲的に断ったつもりが相手にその意図が伝達されない場合である。約束を守らない人だと誤解され、対人関係の問題に発展しかねない。(8)学園祭の準備物の買い物を頼まれたクメール語母語話者が「探しに行ってみます」と答えた場合、[8.1]クメール語母語話者は婉曲に断ったつもりであるが、[8.2]日本語母語話者は、その品物が売っているかどうかについて確信はないにせよ、一応引き受けたという意味表示であると解釈する。クメール語母語話者であれば、*sa:k -V- mà:l*を伴う回答を聞いた時点でその人

² クメール語の試行形式には *mà:l* 単独の形式で接辞尾化した結果への意識の薄いものあり、その形式であれば、韓国語同様(4)(5)のような場面での使用が可能であるが、聞き手の能力にかかわることには使いにくいという特徴は残る。

に頼むのは諦めるか、きちんと約束を取りつけるまで確認し続けると言う。一方、[8.3]韓国語 *V-boda* の意向形では、日本語とほぼ同様の使用があるため (8) は承諾のつもりで答えていると考えられるが、(8) と言ったからといって日本語母語話者ほど「試行」の意味合い（できるかどうかかわからないがという含み）を込めているとは言いきれない。韓国語母語話者の場合、「V てみます」を特に「試行」の意味合いを持たせず、「V ます」の丁寧なバージョンとして使用していると見られる場合があるからである。山崎 (2017) 等でたびたび指摘されているが、*V-boda* の意向形は、帰り際に「お先に失礼します」の意味で (9) 「먼저 가보겠습니다 (帰ってみます)」のように謙譲語マーカーのようなはたらきをすることがある³。なお、[8.4]タイ語母語話者は、「V てみます」に関して、初回の試行であること、且つ、結果がはっきりしないことが前提でなければ使いにくいと感じるが、含意の解釈自体は比較的日本語に似ていると言える。

V-テミルと願望形式が融合した *V*-テミタイに関しても、違和感なく使える韓国語母語話者に対して、クメール語・タイ語母語話者は一様に使いづらいと言う。タイ語母語話者の場合、単に母語の類似形式の使用頻度が低いためではない。タイ語母語話者は、(10)女性が「男に生まれ変わってみたいな」と言うのには違和感はないが、(11) 2 枚目俳優をテレビで見て「あんなイケメンに生まれ変わってみたいな」には抵抗があると言う。理由は、(11) の場合は、その結果が概ね肯定的であると予想されるためである。ここでも[11.1]期待感さえあれば *V*-テミタイが使用できる日本語と、[11.2]「負の結果」も含意されなければ試行形式を使用しにくいタイ語 *boɯ -V- duu* との違いが表れている。[11.3]クメール語では、もともと「試行」と「願望」が融合した形式は使用しないが、これは「負の結果」の比重が大きい *sa:k -V- mət* と願望形式を組み合わせること自体に無理があるためかもしれない。また、日本語では、非現実的な願望であればあるほど *V*-タイよりも *V*-テミタイの使用が自然であると感じられるが、タイ語やクメール語ではそのような使い分けをしているわけではない。そのため、日本語の単純な願望形式 *V*-タイと *V*-テミタイの微妙な差異に気がつきにくく、例えば、日本語母語話者の (12) 「〇〇に行きみたい」という発話を真に受けて、「いつ行こうか？」と聞き返してしまうことがよくあると言う。[12.1]日本語母語話者がこの形式を使用する場合、文字通り「言っただけ」⁴で、社交辞令も含め、実現させるつもりが無い夢物語を語っている場合が多いが、[12.2]タイ語母語話者やクメール語母語話者には紛らわしい表現となる⁵。

4. タ形 *V*-テミタ

過去時制や完了アスペクトにおける試行形式の使用は、言語によって差異が大きく見られる領域である。(13) 帰宅した子供に母親が「先生に相談しみた？」と尋ねるような場合、[13.1] クメール語やタイ語では試行形式無しで尋ねるのが一般的であるため学習者の *V*-テミタの非用が目立つ一方、[13.2] *Vboda* は試行から経験まで意味の幅が広いので、韓国語母語話者は多用する傾向が見られる。(13) に対する答えとして (14) 子供が「うん、相談しみた」と言う場面では、[14.1]日本語では、とくに逆接の接続助詞「〜けど」等が無い限り、続きを聞かなければ結果がどうなったのかわからないが、[14.2] *sa:k -V- mət* では、聞き手は望ましくない結果を予想し、話し手は引き続き結果を最後まで述べる必要がある⁶。[14.3] *boɯ -V- duu* でも、*V* が意志的で「試行」の結果を述べる文が継起する場合に限り、前置きとしての使用が認められるため、クメール語母語話者もタイ語母語話者も (15) 「先生に相談しみた。でも今の成績では進級は難しいと言われた」のような文であれば、*V*-テミタも違和感なく使用できると言う。尚、タイ語母語話者は、結果が否定的でない (16) 「例の申し出について考えてみました。お引き受けしたいと思います。」のような文でも違和感がない。

(13) ~ (16) のいずれの用例でも日本語の *V*-テミタは、なにがしかの結果についての言及が期待される前置き表現としての機能を持つと言えるが、*Vboda* では結果が継起する必要は必ずしもないため、タ形の使用において母語に存在する経験用法を用いるという誤用が多く見られる。(17) 「私も大学1年生のとき、失恋してみました／失恋してみたことがあります。」のような非意志的な *V* を *V*-テミタと結合させた用例では明らかな誤用となるため修正が可能であるが、(18) 「富士山に登てみた」のような意志的な *V* の場合は誤用が気づかれにくい。[18.1] 韓国語母語話者は経験を報告しているだけであるのに、[18.2] 日本語母語話者は話の続きを期待するという齟齬が生じることがある。これも、「結果への意識」という観点から見ると、経験用法は経験自体には言及するが、その結果がどうであったかについては必ずしも言及する必

³ 韓国語は待遇形式が発達しているにもかかわらず、日本語のような謙譲語のシステムが無いので、このような聞き手目当ての「丁寧」な表現がそのギャップを埋める形式として発達し使用されていると考えられる。

⁴ 「言っただけ」は、実現不可能とわかっている願望や要求を相手に否定されたときに言う決まり文句である。韓国語にも同様の言い方が存在する。

⁵ 庵・他 (2000)、岡本・他 (2009) では、*V*-テミタイを「控えめな願望」と説明しているが、「控えめ願望」を述べる用法であるよりも、「実現させるつもりがあまりない」というところから「控えめ」に聞こえる場合があると言った方が正確であると考えられる。

⁶ 英語の *tried to V* の場合、その動詞 *V* の内容が実現されなかったことを常に含意することを考えると、そう不思議なことではない。

要がないという点で「結果への意識」の薄い用法であるということが出来る。日本語では従属節に限られる経験用法が韓国語では主節末でも可能であるのはこのためである。

5. 「結果への意識」と文法化

以上、各言語の試行形式の用法の持つ含意の違いについて、「結果への意識」をキーワードに見てきた。本発表では、このような差異を文法化の程度の違いから生じるものと考え、(表1)にその違いをまとめた。Vの意志性制約が薄らぐと、本稿で重要視している「結果への意識」の強弱に相関が見られ、さらにそれが用法の多様化と平行している。

(表1) クメール語 *sa:k-V-mà:l*・タイ語 *lɔŋ-V-duu*・日本語 *V-テミル*・韓国語 *V-boda* 文法化比較

	<i>sa:k-V-mà:l</i>	<i>lɔŋ-V-duu</i>	<i>V-テミル</i>	<i>V-boda</i>
結果への意識	否定的結果への意識が強い。	結果の不確定性への意識が強い。	肯定的結果への期待だけでも使用可。	結果に対する意識が薄い用法が存在。
Vの意志性制約	条件節でのみ緩和される。	条件節でのみ緩和されるが、多用しない。	条件節でのみ緩和される。	条件節でも主節でも制限が無い。
完了の場合	逆接的な内容の後続文の前置きとしての使用であれば可。	一般的に不使用。前置きとしての使用有り。	過去の試行に対する結果への意識がある場合は使用可。	日本語同様の過去の試行を表す用法に加え、経験用法(意志的V、非意志的Vと結合)が存在。

6. 現状の問題点とまとめ

本発表では、今まで指摘されることが少なかった *V-テミル* をめぐる学習者と日本語母語話者の認識のズレに焦点をあて、それが各言語の「試行」形式の持つ「結果への意識」の違いとそれによって生じる含意の違いによって引き起こされていることを指摘した。本発表で見たように、母語に類似形式がある場合、母語の形式の持つ含意をそのまま日本語に転移するという負の転移が起こりやすく、それに起因する誤解、齟齬、非用が発生しているが、修正されることなく放置されている現状が少なからずある。最後に、現状の問題点を挙げる。①初級の段階で単純に *V-テミル* は「試行」を表す表現であると教えられ、その後は触れられることが少ない。②初級段階では形式の持つ含意については特に情報を与えられていないことが多いため、母語に類似形式がある場合は母語の形式が持つ含意を無意識のうちに転移する傾向がある。③ *V-テミル* 自体の研究が不十分であり情報が少ない。④ *V-テミル* は多くの場合任意の形式であるため、非用が見過ごされがちであり、過剰な使用が見られる韓国語母語話者を除いては、形式に対する思い込みを修正される機会が少ない。以上をまとめると、*V-テミル* 形式を学習者が使いこなせるようになるためには、*V-テミル* 形式の研究を深めると同時に、この形式の持つ言外の意味を意識的に教育に取り込んでいくことが必要であると思われる。

参考文献

- 庵 功雄・松岡弘・中西久実子・山田敏弘・高梨信乃(2000). 松岡弘(監修) 初級を教える人のための日本語文法ハンドブック, スリーエーネットワーク
- 金水敏(2004). 文脈的結果状態に基づく日本語助動詞の意味記述, 影山太郎・岸本秀樹(編) 日本語の分析と言語類型 柴谷方良教授還暦記念論文集, くろしお出版, pp. 47-56.
- 生越直樹(1991). 朝鮮語어 보다と고 보다と日本語「てみる」, 日本語学, Vol. 10. 12, 明治書院, pp. 90-101.
- 岡本牧子・沢田幸子・安田乙世(2009) はじめて日本語を教える人のためのなっとく・知っとく初級文型 50, スリーエーネットワーク
- 嶋田紀之(2007). 「V てみる」の多義性と文法化, 東京大学総合文化研究科言語情報科学専攻 2007 年度 修士論文.
- 須永哲矢(2007). してみる形の意味, 日本語学論集, 第3号, 東京大学大学院人文社会系研究科国語研究室, pp. 92-105.
- 山崎雅人(2017). アルタイ諸語, 朝鮮語と日本語における視覚動詞の試行相文法化の展開, 言語処理学会第23回年次大会 発表論文集, pp. 70-73.